

- ◆ また、前年度に引き続き、評価対象問題には○、△、×の評価を行った。臨床検査データ標準化事業については、事業 2 年目となる今年度から 47 都道府県技師会全てが参加し、165 基幹施設と検査値標準化ワーキンググループが連携を取り標準化を推進した。
- ◆ 一般教育研修課程の平成 19 年度の修了証書を、平成 20 年 4 月 21 日付けで 7,926 名に発行し、以降 5 名の修了者に修了証書を発行した。累計は 7,931 名である。検査研究部門研修会は、生物化学分析部門(4 回)、生理機能検査部門(1 回)、形態検査部門(4 回)、感染制御検査部門(2 回)、移植検査部門(3 回)、総合管理部門(1 回)の 15 回開催した。日臨技奨励研究については、特別研究 3 題、助成研究 2 題、プロジェクト研究 1 題である。
- ◆ 認定心電検査技師制度認定試験を 12 月 14 日(日)、認定一般検査技師制度認定試験および認定臨床染色体遺伝子検査師制度認定試験を 12 月 21 日(日)に実施した。
- ◆ 会誌「医学検査」は、投稿・依頼を含む投稿論文 69 編、都道府県技師会推薦論文 29 編、平成 19 年度日臨技助成研究報告 1 編で推移している。

### <平成 21 年度事業計画＝骨子＝> ※事業計画(案)全文は総会議案書参照(「医学検査」3 号に掲載予定)

- 平成 21 年度第 1 回定期総会<決算総会>は、平成 21 年 4 月 25 日(土)、大森東急インで開催予定。第 2 回総会および代議委員会の開催日程は未定である。
- 当会の会費納入は規定による「前納制」であり、継続会員の前納の確保に努力する。従来からの会費未納者および退会処理などに関する問題点を考慮し、会費等納入に関する自動引き落としの具体化を図る。
- 公益法人認定に向けて、引き続き定款並びに諸規程の検討を行う。
- 国民を対象とした衛生思想並びに臨床検査の普及啓発を推進するべく「日臨技公益目的推進事業」として全国展開を視野に入れた事業展開に努める。世界医学検査デーにおける臨床検査の普及啓発活動、乳がん撲滅月間啓発活動、全国糖尿病週間・世界糖尿病デーにおける生活習慣病の予防啓発、臨床検査の普及啓発活動などである。
- 公益事業に限定した都道府県技師会の申請による「日臨技と各都道府県技師会共催事業」を、計画申請の適性審査・認定による事業展開を行う。
- 昨年度の総合情報管理委員会の検討事項である「新公益法人を見据えた情報システム構築」に基づき、新システムの構築を目指す。更に、現行の部会、委員会を新システム管理・監視の作業班として設置し、総合的なシステム管理・情報管理を行い、併せて外部委託も検討し、システム自体のスリム化を図る。組織調査に関しては、日臨技発行の指針等を実際に導入した事例の収集、各種アンケートの分析、それらを基にしたナレッジ・データベースの構築を図る。また、国際交流事業推進のための国際交流事業に関わるアンケートを実施し、特に教育に関する情報発信を行う。
- 国民のための検査に関する安全と安心に関する意識並びに実態調査等をホームページの活用により展開し、真に国民が求める医療の安全と安心についての情報発信基地としての役割に努力する。
- ホームページの充実を図る。具体的項目としては、本年度開催される AAMLS 学会の動画配信を含めた対応、ICT 戦略委員会答申を受けて会員のための「eラーニング」の導入と安定稼働、更に、ライブラリーの追加、ビデオ教材の充実、会員からの意見公募や各種 Q&A などの対応を目的とした掲示板の開設、精度管理事業担当部署と連携を図り、各施設において日常行われている精度管理を日臨技が提供するデータを基にホームページ上にて評価する解析サブシステムの組み込み、ICT 社会における検査技師のプレゼンス向上を目的として、ICT 技術と基礎知識に関する指定出版物の作製とそれに基づく実技研修会の実施などである。
- 臨床検査精度管理調査の「微生物検査」を「微生物 A<グラム染色、フォトサーベイ>」および「微生物 B<細菌同定 2 種、薬剤感受性 1 種、フォトサーベイ>」に分け実施する。また、例年とおりの総合報告会を開催する。
- 臨床検査データ標準化ガイドライン・マニュアルに基づき、各都道府県技師会におけるデータ標準化の実践を推進する。データ標準化の継続的推進に向けた情報システム・ガイドラインを作製する。
- 生涯教育研修制度ガイドラインが変更されて 2 年を経過した経緯を踏まえ、都道府県技師会との連絡を密にし、多くの会員が履修できる体制の確立を図る。昨年度、検査研究各部門に担当理事を配置し、部門員からの意見が直に聞ける体制を組んだ。これを生かし事業を活発化させるためにも各都道府県技師会との連絡を密に、更なる同会議の強化を図る。検査部門研修会は、18 回の開催を予定している。地区学会は、例年とおりの 7 回を予定している。
- 当会会員を対象にした日臨技奨励研究である「特別研究・助成研究」、および、当会理事、学術検査研究部門および各委員会委員長が申請対象者となっている「プロジェクト研究」の推進を図る。
- 認定輸血検査技師制度、認定臨床微生物検査技師制度、日本サイトメトリー技術者認定制度、認定血液検査技師制度といった<臨床検査技師認定機構による認定制度>については、引き続き関連学会との連携を基に、情報交換に努める。当会以外の団体が主導的に実施している認定制度である、<認定 CRC 制度、POCT コーディネーター、糖尿病療養指導士、NST-栄養サポートチーム>の各認定については、当会の立場を明確にし「あり方検討委員会」を設置し対応する。認定臨床染色体遺伝子検査師制度<事業部による認定制度>第 2 回認定試験は受験者が少数に終わった。今後、日本染色体遺伝子検査学会との協議を行い、本認定制度のあり方を再検討する。
- 認定一般検査技師制度<日臨技認定センターによる認定制度>については第 4 回認定試験を、認定心電検査技師制度<日臨技認定センターによる認定制度>については、第 3 回認定試験を実施する。また、認定取得者(認定取得予定者を含む)を対象とした、生涯教育研修制度を基本とする更新のための研修会を検査研究部門、地区および都道府県技師会との連携を考慮に入れて開催する。
- 昨年度実施の環境整備を基に、情報調査部との共同作業による「eラーニング事業」の実用化に向けた事業推進を図る。
- 会誌「医学検査」は、今後も会員からの積極的な論文投稿を期待するところであるが、随時最新の話題を特集する企画を積極的に取り入れた事業展開を行う。会報 JAMT は、今後も会員に対しより有効となる情報を提供できるよう企画・編集を行う。

→